

エゾエンゴサク

Corydalis ambigua

ケシ科



エゾエンゴサク

名前の由来

北海道に生える延胡索という意味。延胡索はこの類をさす漢名で、塊茎を乾燥させた漢方の生薬「延胡索」に由来する。漢字名：蝦夷延胡索

形態的特徴

高さ15～20cmになり、全体に弱々しい。地下に径1～2cmの塊茎がある。葉は3枚の小葉に分かれ（1～2回の三出複葉）、小葉は楕円形から線形まで変異が大きい。花は長さ

2cmほどの細長い筒型で色は青～赤紫、白など変化が多く、茎の上部にまとまって総状につく。

類似種と見分け方

エゾキケマン、ムラサキケマン。

エゾキケマンは花が黄色で、小葉は細かく裂ける。ムラサ

キケマンは花が赤紫色で、葉縁には細かく鋭い鋸歯が多数ある。



エゾエンゴサク



類似種のムラサキケマン。
開花時期はエゾエンゴサクより遅い



エゾエンゴサク。葉が開く時につぼみを付ける

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期	■											
結実期	■											

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ

生育環境・分布

広葉樹林内や林縁、日当たりのよい山地～平地の草原や湿原で見られる。しばしば群生する。

分布：国外分布は、南千島・樺太・オホーツク沿岸。

国内分布は、北海道から本州北部。

北海道内分布は、全道。十勝地方では、広葉樹林内や林縁などに普通に見られる。しばしば群生する。

生活史

開花時期：4～5月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

エゾエンゴサクの開花期間は、4月初旬は20日以上と長いですが、5月初旬では5日以下と短くなる。これは種子をつくるためにマルハナバチに花粉を運んでもらう必要があるため、4月はまだ寒くハチの動きが鈍いため開花期間を長くすることでハチが訪花する確立を高めているという。5月初旬で暖かくなってハチの動きが活発になるころには開花期間は短くなり、ハチの訪花頻度に合わせて時期により開花期間が変動する。

興味深い話

■エゾエンゴサクの種子は、果実の皮が裂けた時の勢いで周囲にばら撒かれる。

■山菜として若葉、若い茎、花、塊茎が利用でき、アクとくせがなく、サクサクした歯ざわりがあり、おひたし、ごまあえ、てんぷらなどでおいしく食べられる。一方、食べると腹痛等を起こすとも言われるので食べ過ぎない方がいいのかも知れない。

■塊茎を乾燥したものが漢方で用いられる生薬「延胡索」で、浄血、鎮痛、鎮痙薬として利用されている。

■筒状の花の尻の部分（距）に蜜があり吸うと甘い。

■エゾエンゴサクは、カタクリやアズマイチゲなどと同じ“スプリング・エフェメラル（春の妖精）”とよばれる植物である。まだ木の樹木が芽吹いていない春先、日のよく当たる林の下で葉を広げて一斉に花を咲かせる。樹木が芽吹き、林の下に日差しが届かなくなる頃には花を終わらせ、

配慮事項

生育場所である林や原野全体の環境が重要である。



早春の林床。パイケイソウの若芽などとともにエゾエンゴサクの白い花が見られる

ヒメウスバシロチョウの幼虫の食草となっている。



ヒメウスバシロチョウ。幼虫時エゾエンゴサクを食草とする
(標本-吉原利之氏所蔵)

夏には地上部を枯らし休眠状態に入る。

■十勝地方などのアイヌ語では「トマ」という。

■アイヌ語名トマは、エゾエンゴサクの塊茎を指し、花の終わった6～7月に地中のトマを掘り出し、茹でて食べたという。また、貯蔵用にはトマに穴をあけて糸を通し、ネックレスのようにして乾燥させた。乾燥させたトマを食べるときは、水で戻してからいろいろなものとあえ、油をつけて食べた。トマはでん粉を含むため、大事な食料とされた。



エゾエンゴサク。白い花も稀に見られる

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989
「北海道植物図譜」滝田謙謙 自費出版 2001
「日本の野生植物 草本Ⅱ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982
「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995
「日本山野草・樹木生態図鑑」沼田真 全国農村教育協会 1990
「花のおもしろフィールド図鑑 春」ピッキオ 実業之日本社 2001

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜璃西社 2002

「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館（編）、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類